

圏央道全通見据え大型拠点

第一貨物 新大宮支店が竣工



岩槻・足立支店を統廃合

第一貨物(武蔵幸規社長、山形市)は新大宮支店(さいたま市岩槻区)が竣工したに伴い、3日から業務を開始する。埼玉県下で5番目の拠点となるもので、特積輸送施設と共に、一時保管・流通加工業務などを行う物流センターを併設。2014年には首都圏中央連絡自動車道(圏央道)が全面開通することから、東北・関東・関西を結ぶ複合物流センターとしての役割も担っていく。

(高木 明)

新大宮支店は敷地面積2万2500平方メートル、4階建てで、延べ床面積2万9700平方メートル。1階は特積輸送向けの仕分けホームで、西面に計14バース(1バー3両接車可能)設けた。埼玉県東部にあった岩槻支店及び東京都北東部の足立支店を統廃合し、新たに東北自動車道・岩槻インターチェンジ近くに建設したものの。

3階、4階は入居テナント向けの事務所スペースのほか、家電量販店及び化学品メーカー向けの一時保管庫や流通加工業務などを行う施設として活用。延べ保管面積は1万8800平方メートル。1階の特積輸送の機能

3日から営業開始の新大宮支店

を組み合わせることで全国配送の物流ニーズにも対応する。2階部分はカパセルベッドを設置し、ドライバー向けの仮眠施設場となる。

現在、埼玉県内には新大宮支店のほか、八潮、熊谷、栗橋、入間に各支店を配置している。今回オープンする支店は延べ床面積で旧施設(岩槻・足立)の10倍の規模となり、近隣4支店の集配エリアを見直すことで直行便を拡大する。

同支店内には久留米運送(二又茂明社長、福岡県久留米市)も入居し、埼玉支店(仮称)として活用。現在、両社は連絡運輸で業務提携しており、九州及び北方向の中継輸送の拠点としての機能も担う。

なお、営業開始に先立ち、11月29日に取引先などを招き、内覧披露式を行った。安達英雄常務は「14年の圏央道全面開通を見据え、東名・中央・東北・常磐の各自動車道と連結した高速道路網を利用し、圏央道に沿って配置された厚木・入間・大宮の各支店の立地を生かした輸送サービスを提供していきたい」と語った。